

中期目標の達成状況に関する評価結果

岐阜大学

平成21年3月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

I 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（18項目）のうち、7項目が「良好」、11項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（9項目）のうち、4項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(4) 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画で「学生の知的好奇心を高める」「チュートリアルを含めた少人数のグループ学習、附属施設での実験・実習の充実強化等、能動的、課題解決型学習を進める」及び「成績評価基準を明確にし、厳格なる評価を行う」としていることについて、学生に知的刺激を与えて能動的な学習を促す試みや、チュートリアル教育により学生の実態を直に把握する取組、各学部へ苦情処理委員会を設置し教養教育において「異議申し立て制度」を整備したこと等は、学生からの意見、要望、苦情を取り入れ、教育内容・方法を改善する体制が整備されている点で、優れていると判断される。
- 中期計画「教員の教育力向上のための FD 事業を一層充実させる」について、教養教育推進センターが設置、充実されたことにより、ファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動等の教育改善活動が活発に行われ、『教養教育 こんな授業を受けたい「ベスト 10 集」』の発行や自然科学系科目の分野大別化等による学生満足度の上昇に結びつく改善が行われていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「社会のニーズと地域の要請に応じた教育実施体制等の充実を図る」について、連合創薬医療情報研究科、地域医療医学センター、金型創成技術研究センター等、自治体や企業の要請を把握した特色ある新たな教育実施組織が作られたことは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「学生が身近の問題を有機的に関連付けて理解できる能力を養うために伝統的な分野とともに学際的な教育を強化する」としていることについて、教育内容の充実のため、講義担当教員の自己評価を実施したことは、今後この取組がどのように機能し、教育方法の改善・充実に結びついていくかが注目される点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画で「専門分野における勉学及び国際理解の手段となる英語運用能力の強化を図る」としていることについて、イングリッシュラウンジを開設していることは、平成 19 年度の参加者が減少しているものの、英語運用能力の向上に対する学生の能動的な取組に資し、今後さらなる充実が期待される点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画で「全学的に配置できる教員ポストの設置を平成 19 年度までに検討し、実施する」としていることについて、教養教育担当者へのインセンティブ経費の配分を実施したことは、この制度が実質的にどのように機能するかの検証は行われていないものの、今後の成果が期待される点で、特色ある取組である。また、応用生物科学部獣医学講座が、自助努力によって 5 小講座を増設し、獣医学教育の充実を行ったことも、特色ある取組であると判断される。
- 中期目標で「学生の自学自習環境の整備と充実を図る」としていることについて、学生の自学自習を促すための施設として、グループ学習室や学部間交流の場を整備することとしているが、施設の余裕や予算措置が厳しい中で、工夫を凝らしながら着実

に整備を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

- 中期計画で「学習全般にわたる個別相談体制を整備する」としていることについて、大学会館に学生ラウンジを設けてカウンセラーを常駐させていることや、「提案箱」の設置、「何でも e-相談」窓口の開設等、学生の生活支援・学習支援の推進を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

II 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8項目）のうち、5項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

- 中期計画で「岐阜大学を特徴づける独創的、先進的な研究を推進する」としていることについて、岐阜大学活性化経費（研究）等の優先的な予算配分により各種のセンターを設置し、独創的・先進的な研究を進めていることにより、その成果が外部資金

の増加につながったことは、優れていると判断される。

- 中期計画「公開講座や公開シンポジウム等を通じて、研究成果を社会に発信する」について、「岐阜シンポジウム」、「岐阜メディカルフォーラム」、「工学部テクノフェア」の開催や、「岐阜大学シティカレッジ・プログラム」の開設等、研究成果を積極的に社会へ発信していることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「社会の要請をとらえ、研究実施体制等の充実を図る」としていることについて、人獣感染防御研究センターや岐阜薬科大学との連携による先端創薬研究センターの設置や、岐阜県との連携による野生動物保護センターを設置したことは、地域社会に対し、十分に貢献している点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「研究の質的評価目標を設定し、評価制度を導入する」について、「貢献度実績・自己評価表」による教育職員の個人評価を実施したことは、今後、検証結果を踏まえたさらなる充実が期待される点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「学部、大学院の教育・研究方針を勘案し、適切な教員配置を図る」について、ポイント制を活用して、各学部の特色にあわせて適切な教員配置が行われる制度を設けていることは、今後の研究面・教育面での活性化につながることを期待される点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「高い研究評価を受けた教員に対してインセンティブを与える」について、長期的でかつ特筆すべき成果を生み出した教育職員を適切に評価する取組として、賞与面での優遇措置や大学としての表彰、各種学術賞への優先的な推薦が行われていることは、平成18年度から実施された新しい取組であるため、現時点では十分に機能しているかどうかを評価できないものの、教育職員のインセンティブ向上が期待される点で、特色ある取組であると判断される。

III その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

〔評価結果〕 中期目標の達成状況がおおむね良好である

〔判断理由〕 「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8項目）のうち、4項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

- 中期計画「国際的なシンポジウムの開催を支援する体制を整備する」について、国際会議、国際的シンポジウム等の開催を推進するため、大学独自の政策経費等で支援する枠組みを設けたことにより、「家族・暮らし・地域の変化 - 日本とスロバキア -」や「伝統発酵食品中の微生物に関する国際シンポジウム」等の開催につながったことは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「海外との研究者、大学院生、学生の交流を支援する体制を強化する」について、韓国・ソウル産業大学やスウェーデン・ルンド大学からの夏季短期留学生（サマースクール）の受入れやオーストラリア・グリフィス大学への学生の派遣を全学的に支援していることは、実質的な国際交流に結びつくものとして、今後さらなる充実が期待される点で、特色ある取組であると判断される。